

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	アヴァンギャルド音楽の系譜と没落										
【授業の概要・目的】											
<p>「前衛音楽」とはきわめて20世紀的な歴史的現象である。言い方を変えれば、「前衛的である」ことは今や既に古びた過去となったと言ってもいい。しかし20世紀のとりわけ第二次大戦後の西側における1950・60年代の音楽は、アヴァンギャルド芸術の一つの頂点であり、今こそ新たにそれが提起した問題に新たな光を当てることの意味はある。後期は前衛音楽が一方でロマン派的な主体表現の芸術であったと同時に、とりわけ第二次大戦後は熱烈に「科学」たらんとした両義性を理解し、かつ70年代におけるその没落を論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>第二次大戦後の前衛音楽における科学化とそれが半ば必然的にもたらした1970年代における音楽のテクノ化そして前衛の没落を理解すること。また前衛芸術に対して与えたポストモダンの美学の打撃について考える。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>予定しているのは以下のテーマであり、それぞれに3回程度の授業を充てる予定である。 1 - 3回：1970年代の音楽のルーツとしてのジョン・ケージ 4 - 6回：ノイズと電子音楽の魅惑 7 - 9回：東側の音楽への一瞥 10 - 12回：前衛の挫折：シュトックハウゼン、ブーレーズ、マイルス・デイヴィス 13 - 15回：1970年代または19世紀ロマン派の終焉</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない 毎回レジメを配る予定。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)</p>											
【授業外学習(予習・復習)等】											
<p>授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											